

## \*EPO 東北オフィス利用案内

### EPO東北のミーティングルーム貸出 (無料)

- 環境活動、震災復興支援活動のミーティングやセミナーにご利用いただけます。
- 開館日/月～金
- 利用時間/10:00～18:00
- 利用人数/30名まで  
※時間外、土日の利用も可能です。事務局までご相談ください。



### ◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。  
お気軽にお立ち寄りください。  
チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。

## \*Web-Siteのご案内

- ◆お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧
- ◆随時更新：お知らせ、活動報告、日記  
3.11あの時 stage2013

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先の現地レポートが人気です！  
大震災から2年半以上が経過し、2013年度は「3.11あの時」ヒアリング後を伺った追加レポートも掲載しています。

## \*EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	<a href="http://www.eco-aomori.jp/">http://www.eco-aomori.jp/</a>
環境パートナーシップいわて	<a href="http://www.iwate-eco.jp/">http://www.iwate-eco.jp/</a>
環境あきた県民フォーラム	<a href="http://www.eco-akita.org/index.html">http://www.eco-akita.org/index.html</a>
環境ネットやまがた	<a href="http://eny.jp/">http://eny.jp/</a>
超学際的研究機構	<a href="http://www.chogakusai.ecnet.jp/">http://www.chogakusai.ecnet.jp/</a>
せんだい・みやぎNPOセンター	<a href="http://www.minmin.org/">http://www.minmin.org/</a>
環境会議所東北	<a href="http://kk-tohoku.or.jp/">http://kk-tohoku.or.jp/</a>
仙台広域圏ESD・RCE	<a href="http://rce.miyakyo-u.ac.jp/">http://rce.miyakyo-u.ac.jp/</a>
環境パートナーシップ会議	<a href="http://www.epc.or.jp/">http://www.epc.or.jp/</a>

EPO東北は東北地方環境事務所(環境省)と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



# EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス  
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1 オークビル5F  
TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181  
E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: <http://www.epo-tohoku.jp>

勤務時間：月曜日～金曜日【9:30～18:00】  
休日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



# TOHOKU EPO通信

[エポ] vol. 18

東北環境パートナーシップオフィス



薪ストーブ (写真提供：株式会社岩手暖炉)

## Contents

- ※ EPO東北の取り組みについて  
「申請書の書き方のコツ」  
「助成金セミナー開催」
- ※ 復興支援グッズ
- ※ 東北6県EPOトピックス

### 東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

# EPO東北の取り組みについて

## NPOのための助成金申請書 書き方のコツ

NPOの資金調達には、「活動のための資金を集める」という意味合いに加えて、補助・助成金を受けて実施した事業が「新たな事業につながる可能性」が含まれています。資金調達は、団体を育て、自分たちの活動をより広く社会につなげていくためのチャンスです。一方で申請者の増加に伴い、申請書類の内容が以前に増して高度になってきています。申請書類が果たす役割について考えて、書き方を見直しましょう。

### ■申請書を書く前に①

#### 公募要領のスキからスキまで目を通しましょう

助成団体が、どんな団体のどんな活動を助成したいと思っているのか、求めている活動や審査基準を記しているものが公募要領です。応募団体の活動目的と、助成団体の助成目的が合致していない例もみられます。申請書に取りかかる前に、まずは助成主旨をしっかりと読み取りましょう。審査基準や申請時に求める情報、事業期間など細かな点も確認し、相手がどんな活動を求めているのか、申請を書く前にしっかり把握しておくことが大切です。

最近では助成終了後も活動が継続・発展することを目指して、次年度以降のための基盤作りを支援する助成金も増えてきました。こうした助成金を活用する場合は、あらかじめ団体内で中期計画を検討しておく必要があります。

### ■申請書を書く前に②

#### 申請書の役割を考えましょう

助成団体は大事なお金をより意義のある活動に有効に使ってもらうために、申請書をもとに助成の可否を審査します。申請書は、審査員に対して「この活動を支援したい」と思わせる、共感を得るための大事な役割を担っています。つまり数枚の申請書の中で、「事業の必要性」と「助成を得て活動することで期待される効果」を訴えることが欠かせません。重要なPRツールなのだとして申請書に向き合しましょう。

#### <共感を得るための5つのポイント>

- (1) なぜこの活動が必要なのか、ニーズを明示する
- (2) どんな成果を目指すのか、目標を明示する
- (3) 具体的に活動の体制、内容、スケジュールを明示する
- (4) 活動のためにかかる費用を明示する
- (5) この助成金を選んだ理由を明示する



### ■申請書 書き方の心得

#### 正確かつ簡潔に、そして具体的に

いかに熱心に活動に取り組んでいるかを訴えるのではなく、申請書類の設問項目にしっかりと答え、審査員の理解を得るために簡潔に要点を伝えましょう。「里山の保全」といった抽象的な表現は避け、具体的な活動内容と実行可能なスケジュール、さらに成果目標を提示します。また、要点を絞りながら「伝える工夫」も必要です。活動のオリジナリティや、根拠となるデータ等を活用し、審査員の印象に残る申請書を目指しましょう。

### ■申請書 書き方のコツ

#### チェックリスト

項目	チェック内容	項目	チェック内容
活動名	活動内容が分かる具体的な名称になっていますか？	活動の実施方法	実現可能な内容ですか？ × 実施体制や必要経費との関係が不明確 ○ 箇条書きに整理する、経費との整合性がとれている
団体概要	団体を信頼してもらい情報公開をしていますか？ × 抽象的な団体ミッションを書く ○ 事業実績など団体のアピールをする	期待できる効果	活動をするとなんがどう良くなりますか？ × 一般論 ○ 目標の達成を計る指標を記述する
活動の目的と概要 活動の目標	明確かつ簡潔に書いてありますか？ × 「水環境の保全」など漠然とした目標、専門用語を使用する ○ 活動に取り組む理由と内容を具体的に書く	スケジュール	計画性のあるスケジュールですか？ × 実行不可能または活動実態が不明確なスケジュール ○ 実現可能なスケジュール
活動の背景	活動の必要性を明記していますか？ × 課題解決手法と活動概要・目的が不一致 ○ 地域課題の現状と問題点、必要性を示す	収支	適正な収支計画ですか？ × 合計金額が違う、高額な謝金、物品購入費が大きい ○ 活動の内容に見合った適正な収支

### ■申請書 提出の前に

#### 自分達で審査してみましょう

申請書類を読み直すだけでなく、大事な助成金を託すに値する活動であるか、審査員の立場に立って見直しましょう。プロジェクト担当以外のスタッフにも見てもらい、誤字や脱字がないか、計算ミスがないか、伝わる申請書になっているか、誰が見てもわかる内容であるか、丁寧にチェックします。

書類が完成したら提出前にはコピーをとり、万一選ばれなかった際には何が悪かったのか、団体内で分析しましょう。

## 助成金セミナー開催

8月31日(土)、TOTO株式会社主催による環境NPO・市民団体向け助成金セミナーがEPO東北で開催されました。助成制度を通じて目指す「協働」の姿を知ってもらうことを目的としたセミナーです。

EPO東北より「助成金申請書 書き方のコツ」を紹介した後、公益財団法人コメリ緑育成財団、TOTO株式会社の2団体から助成金制度の説明がありました。「第24回コメリ緑資金公募」は歴史ある助成金で、地域住民が自ら行う公共性のある植栽・植樹等の活動を対象としています。苗木や鉢、ジョウ口の購入など植栽・植樹に関わるものに使用することができます。「第9回TOTO水環境基金」は水のサイクル全般に関わる自然環境の再生・保全活動を助成の対象としています。東北では初めての助成金説明会となりました。グループ社員が選考委員として審査し、助成期間中はグループ社員が各団体の活動にボランティアとして参加する特徴があります。

閉会後は助成団体への個別質問や参加者間の情報交換などが行なわれました。セミナーを通じてよりよい活動が増えることを願っています。

### 助成金情報

EPO東北では、環境、震災復興に関する補助・助成金をホームページに掲載しています。また、月2回発行しているメールマガジンでは当月締切の助成金情報をお知らせしています。助成金情報の収集にぜひご活用ください。



# 復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ (マイバッグなど)

## 1 オクトパス君スマホスタンド

南三陸杉間伐材から生まれた、携帯スタンドです。豊かな森を作る上では立木を間引く事が大切です。しかし、間伐材自体の効果的な活用が少なく南三陸町では人工林の多くが間引かれず残っていました。その材を使い、何か効果的な物が作れないか?との考えから誕生したのがオクトパス君スマホスタンド (木製グッズ)です。

問い合わせ先: 南三陸復興ダコの会  
宮城県本吉郡南三陸町入谷字中の町227  
TEL: 0226-46-5153 FAX: 0226-46-5157  
Email: tako@ms-octopus.jp 価格1,000円

<http://ms-octopus.jp/>



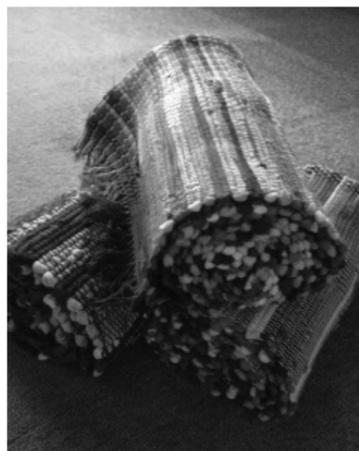
## 2 織り織りのうたヨーガマット

今を織る、時を織る。心×心プロジェクト

2011.3.11ニュースは、ある意味で、身体の一部の崩壊のようでした。すぐに東京のヨーガ教室 (粕江) では、古布を集め手織りのマットを織りました。被災に遭われた皆さまと一緒にヨーガをするために。夢中になれる仕事が心を癒やす!贈りもののマットは被災者のオシゴトへ。同年5月起案。古来より伝承されていた岩泉の女業の復活でもありました。11月販売開始。モノが溢れる現代に、被災地からはじまる「ほんとうの価値」。

「織り織りのうた」は私たちの心のうたです」と織手さん。  
問い合わせ先: プロジェクト事務局 〒201-0005 東京都粕江市岩戸南1-1-16-405  
小本事務局 〒027-0421 岩手県下閉伊郡岩泉町小本字小成133小成仮設団地4-4  
(三陸のともしび「織り織りのうた」プロジェクト宛)  
TEL: 080-5464-1050 FAX: 03-5761-5442  
Twitter: @oriori\_no\_uta

<http://oriorinouta.wordpress.com/>



## 3 おらほもあんだほもがんばっぺし!!Bag

製品名は「このバッグを手に取ったあなたもがんばってね」というところからきています。それぞれが仮設住宅の1室に材料を持ち帰り、一人で縫製しているので、製作者の似顔絵タグもついてます。この商品を通じて多くの方に、被災しても前を向いて頑張っている南三陸の女性のことを伝えたいと思っています。

ご購入いただくことが直接の支援につながります。よろしくお祈りします。  
問い合わせ先: 特定非営利活動法人南三陸ミシン工房  
TEL: 050-3383-2778 FAX: 050-3383-2778  
Email: info@mishinkoubou.org 価格1,890円 (税込)

<http://www.mishinkoubou.org>



# 東北6県 EPOトピックス



## 私たちがお伝えしたいのは、この地の自然の魅力です。

■青森県を代表する観光スポットに十和田湖、奥入瀬渓流、八甲田山麓があります。十和田・八幡平国立公園にも指定されているこのフィールドは、ブナを中心とした自然豊かな森がなりたち、野生動物も多く生息しています。東北の人々が森と上手に関わりあい、今なお奥深い魅力を味わうことができるこのフィールドを舞台に、私たちグリーンハウス (旧ノースビレッジ) は十和田湖でのカナディアンカヌー、奥入瀬渓流や鶯野鳥の森でのランプリングなど体感重視のネイチャーツアーを展開しています。

■私たちがお伝えしたいのは、この地の自然の魅力です。

太古の火山活動により台地が形成され、東北特有の季節風ヤマセが冷涼で湿潤な環境を作り、コケやシダが緑の絨毯のように林床を覆い、頭上には樹木たちが両腕いっぱい枝葉を広げ悠々と立っています。そこには生きものたちの暮らしや様々な関わり合いなどの物語があり、不思議に満ちています。

■私たちのツアーでは、ただ漫然と漕いだけ歩いたりするのではなく、おしゃべりのできるゆったりとしたペースでガイドがわかりやすく解説していきます。鳥の声に耳を傾けたり、しゃがみ込み路傍の花に手を差し伸べたり、ひとつひとつのちいさな命をじっくりと感じ取って頂くことでよ

## 東北6県 青森 EPOトピックス

ネイチャーエクスペリエンス グリーンハウス  
〒034-0301 青森県十和田市大字奥瀬字橋久保182奥入瀬湧水館2F  
TEL: 0176-70-5977  
FAX: 0176-70-5988  
HP: <http://www.novi.jp>

り理解が深まり、魅力が伝わると信じています。

■お客さまの心の思い出の1ページとして深く刻まれ、自然とのつながりが生まれることを願い、私たちは活動しています。



## 北上川アクアレンジャーになろう!

本法人は、水圏における水のつながりを軸とした、自然環境と豊かさが共存する持続可能な流域社会を実現することを目的として、2012年4月に設立されました。

主な活動実績として、川での子ども達の川遊びや、環境学習をサポートする人材の育成を、学生や20代の若者を中心に行ってきました。この人材の育成講習会を受講した方を「北上川アクアレンジャー」と称し、この2年間で32名のアクアレンジャーが誕生しました。昨年度と本

年度はトヨタマーケティングジャパン主催の「AQUA SOCIAL FES!!」において「アクアレンジャー育成講習会」を開催しました。彼らはさっそく、「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」の救助スタッフとして、各小学校、子ども会等の川遊び、環境学習の場で活躍してくれています。

他には、各地の河川の特性を考慮した魅力ある川づくりを進めるため、河川技術者と市民・住民を対象とした公開型ワークショップ「岩手いい川づくり研修会」の開催。川の街盛岡の特性を生かし地域の活性化を目的として、北上川を川下りした後に婚活活動を行う「盛岡・北上川川コン」の開催。北上川上流の子ども達と、下流の子ども達の交流を目的とした川遊びキャンプ「北上川子ども交流



## 東北6県 岩手 EPOトピックス

一般社団法人いわて流域ネットワーク  
〒020-0126 岩手県盛岡市安倍館町14-6  
TEL: 019-681-2622  
FAX: 019-681-2517  
E-mail: [kappars189@yahoo.co.jp](mailto:kappars189@yahoo.co.jp)

会」を開催しました。今後もこれらの活動は毎年実施予定です。これまで主に盛岡を中心とした活動が多かったですが、北上川流域全体に活動を広めていければと思っています。



## 誇れる農業を目指して

### ■設立の経緯と事業内容

一般社団法人BigTreeは2012年復興支援型地域社会雇用創造事業において採択いただき設立致しました。事業内容は主に農産物の生産・加工・販売を中心としコンサルタント事業を行っております。コンサルタント事業は農家さんの事業構想を具現化するお手伝いをし必要があれば補助金や助成金の申請なども行います。日々生産に追われる農家さんの右腕となり地域の農業を活性化できればと取り組んでおります。

生産部門は代表理事である菅原の実家が専業農家ということもあり家業を継ぎ主に水稲、きゅうり（促成・抑制）を栽培しています。

### ■生産のこだわり～自然に近い土壌～

キュウリ生産の特長は「自然に近い土壌」で栽培することです。杉の皮を

特殊な製法で熟成させた培地（イデアルグリーン）と仙台市太白区にある「自家焙煎珈琲ほの香」さんの珈琲の出し殻を配合することにより自然に近い土壌を作り上げることができました。今期が4作目に入り疫病予防や土壌対策などに効果が出ています。

### ■ブランディングでさらなる一歩

担い手だからできる新しい取り組みとして加工分野への挑戦中です。

「キュウリ」の固定概念を崩すような新たな商品を開発すべく2つのブランドを立ち上げました。

惣菜ブランド「ふぁーまーず」は“農家の食卓をお届けします”をコンセプトに第一弾として「きゅうりの佃煮」を9月下旬より販売致します。

デザートブランド「Dessert Plantation」は「スイーツ感覚で、美味しく何ととっても可愛い野菜畑の商品

## 東北6県 宮城 EPOトピックス

### 一般社団法人BigTree

- 代表理事 菅原 大樹
- 〒987-0602 宮城県登米市中田町上沼字大柳99番地1
- TEL : 090-1930-9953
- HP : <http://bigtree-un30.com>

シリーズ」をコンセプトに現在加工場を作る予定です。

### ■選ばれる職業になるために

近年、「農業」分野に興味関心を持ち就職希望者が増えています。

これから「農業」を職業として選んでもらえるよう若い世代が次の世代へ「農業の楽しさ、やりがい」を伝えていくことこそが地域活性、農村活性に繋がると弊社は考えております。

一人で10の農法（事例）を実現するには10作かかりますが、仮に10人の仲間がいれば1作で10の農法（事例）を作ることができます。農業を農家のためだけでなく一般生活者の皆さんと共有するような取り組みを今後は実現していきたいと思っております。

## エネシフヤマガタについて

山形の資源を活かし、地域に利益が残る、再生可能エネルギーの推進に取り組んでいます。

### ■エネルギーシフトヤマガタとは

エネルギーシフトヤマガタは、再生可能な山形の資源を使い、原発にも石油にも頼らない自然エネルギーと共存する安全な日本を山形からつくる活動をするため、3.11 を契機につくられた市民有志の会です。

市民がエネルギーの主體的な選択を進められるように、学びの機会の提供を行なっています。特定の地域や特定の発電方法を、推進・推奨しようとするものではありません。地元の団体を含めて、地域の関係者が広い範囲で関われるように活動を進めており、同時に幅の広い世代を絡めて活動を推進していきたいと考えております。エネシフヤマガタは、エネシフジャパン、エネシフみやぎ、

エネシフ気仙、エネシフいわてのグループと連携して活動を行なっています。

### ■ミッション

再生可能な山形の資源を使い、原発にも石油にも頼らない自然エネルギーと共存する安全な日本を山形からつくる活動を行なっています。



## 東北6県 山形 EPOトピックス

### エネルギーシフトヤマガタ

- E-mail : [eneslif.yamagata@gmail.com](mailto:eneslif.yamagata@gmail.com)
- HP : <http://facebook.com/eneslif.yamagata>

### ■これからの活動（予定・構想）

- ・自然エネルギーの勉強会
- ・エネルギーシフトに関するイベント活動
- ・山形県内のエネルギーシフトのネットワーク化
- ・地域のエネルギーシフト支援
- ・地域のエネルギー政策提言

## あそびながらつくる水辺の空間

地域資源としての水辺空間の活用性向上を目指し、環境デザインの観点で、イベントや清掃を行っています。

### ①活動拠点

あらやちやぶちやぶ大学が事務局を設置している秋田公立美術大学のあらかやには、かつてまちを縦断するように流れる小川があり、地域住民に活用されてきました。その後、製紙工場の排水路として用いられ、平成10年に現在の1kmの細長い緑地に500mの地下水が流れる水路（通称：せせらぎ水路）を設けた親水公園として整備されました。



### ②問題と課題

しかし、現状は親水公園としての機能が活用されていません。その原因として考えられるのは、地下水特有の金気による鉄バクテリアの発生や藻の繁殖のために水路が汚れていることです。そのことから、排水路の時代の汚染水の“汚い”イメージが残っています。これら“汚い”の＜実際＞と＜印象＞を払拭することで、かつて地域住民に生活や遊びで活用されていたように、より楽しく遊び、憩うことができる水辺空間を創出することができるのではないかと考え団体を設立いたしました。

### ③主な活動内容

私たちの活動は今後も多岐にわたって展開していきますが、現在では次の

## 東北6県 秋田 EPOトピックス

### あらやちやぶちやぶ大学

- 〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学内
- E-mail : [chapidai.a@gmail.com](mailto:chapidai.a@gmail.com)
- HP : <https://www.facebook.com/chapidai>

ようなことを主要に行っています。①遊びの要素を入れた掃除イベント「おそうじちやぶ」、②水路に沈殿した土と水路の水で育てた「ちやぶらいつ」「ちやぶがお」など、水路の新たな活用の提示、③水路を身近で豊かな空間であることを再認識してもらうための灯笼流しなど、各種イベントを企画し、開催しています。



## 木材製品の魅力と木文化の振興・伝統技術の継承を福島から発信!!

木を活かして山を生かす、山を生かして生態系を守る、生態系を守ることで人の生活を護る。木材の利用促進で共存型の森林循環推進活動を

東日本大震災で福島県いわき市にある『突き板』という木材製品の加工工場も被災しました。従業員の方々や工場は幸い無事で生産設備も稼働停止に至るまでの大きな被害はありませんでした。しかし地震や津波の被害から逃れたとしても原発事故による風評被害は影響が大きく、従来からの市場環境もあり復興には程遠い状況です。

私たちははじめ「この工場をどうにか救えないか？」という目的で、福島県の木材製品に関わる方々や林業に携わる方々の現場に足を運んで現状を調べました。そして現場の皆さんの話を直接伺っているうちに「突き板工場再生に留まらず多様な木材製品の振興と福島県の復興、こ

の両方に役立つことはできないだろうか？」そして「木材製品の魅力と木文化の振興・伝統技術の継承を福島から発信する」というミッションにぶつかりました。そこで他業種他都県の仲間とプロジェクトチームをつくり、2013年5月21日に特定非営利活動法人の認可を取得した団体です。

### ■主な活動

- (1) 木材製品の放射線量測定管理ガイドライン等の作成。放射線の風評被害や対策に悩んでいる生産者をサポートする。
- (2) 木材製品の伝統また材としての価値や最新の木生活情報を発信。木のすばらしさを感じてもら

## 東北6県 福島 EPOトピックス

### 特定非営利活動法人 木材製品文化振興会

- 〒979-0331 福島県いわき市久之浜町末続字上長沢115
- TEL : 0246-82-4930

えるよう子供たちが木に触れる機会を提供する。

(3) 福島県いわき市の行政との連携。官民の懸け橋となり地域に貢献する。

解決すべき課題は沢山あります。一歩でも進むために地元住民や関係機関・企業と対話を積極的に行っています。木材を取り巻く環境、そして福島復興をお手伝いしていきたいと思っております。

